

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
バラ	茨城	出荷量は昨年並み。品質に問題なし。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 酷暑の影響で上位等級少なく、50cm中心の荷姿。出荷休みの産地もあり、市場全体の入荷量が少ない。
	群馬	平坦地では細霧冷房および夜冷を活用しているが、高温の影響で到花日数が短くなり、小花・短茎傾向。中山間地でも、平坦地ほどではないが、高温の影響による小花傾向が見られる。高温によりハダニ類の発生が多いが、適切な防除により品質への影響はない。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 日柄が非常に良く、ブライダル中心に引き合いは強いと思われるが、8月の酷暑の影響で各産地、芽が出ておらず、入荷量は少ない見込み。花にボリュームも無く、上位等級は8月同様に極少量。
	静岡	8月出荷における夜冷の効果は薄く、本年は上位階級発生が少なかった。残暑次第の生育となるが、7月の高温が影響する事は間違いなく、例年よりも数量は減少する見通し。改植株も高温の影響を受けているが、一通りは出揃いそうである。新植・据え置きともに階級は5-60cm中心となる。	FAJ ブライダル関係需要徐々に始まり相場上昇。出荷数量も徐々に増加予定でほぼ昨年並み程度。 東日本板橋花き 国産産地では高温が続いているため、品質の回復は遅れ気味になり、引き続き上位等級の発生と入荷は少ない見込み。輸入品の入荷が徐々に始まってくる。婚礼等業務や敬老の日中心に引き合いがある見込み。
	愛知	・7、8月の高温の影響で、8月出荷は昨年と比べて1割程度に上位階級の発生率が低かった。9月も徐々に回復していくが、例年に比べて下位等級の発生率が高まる見込み。 ・出荷量は、9月下旬から10月上旬にかけて増加してくると見込まれる。	東京フラワーポート 高温から国内産地は短幹傾向が強まる見込み、品種等階級によっては品薄感もある 世田谷花き 暖地の出荷も増え、後半に向け、婚礼需要も強まる。
アルストロメリア	北海道	6月の低温・日照不足の影響で出荷時期がずれて、8月上旬に出荷数量が増加したことにより、9月の出荷量は平年より減少する見込み。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">現状</div> 7月からの高温の影響から花焼けなどがあり、出荷数量は大きく減少。品薄感から、ピンク、白中心に引き合いがあり、高値での取引となった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">見通し</div> 大田花き 新植のものが徐々に出荷が始まるが、高温の影響から大幅な増加とはならない。花焼けしたものが回復基調となってから、徐々に数量が増加する。
	青森	9月の出荷増を見越して、8月に出荷量を抑える予定だったが、お盆にかけ気温の上昇から出荷量抑えられず、お盆明けからようやく出荷量減。9月の出荷ピークは、彼岸前予想。	FAJ 引き続き長野・山形より入荷。出荷数量少ない状況が続く見込み。 東日本板橋花き 青森県・北海道・愛知中心の入荷・天候次第で入荷が少なくなる可能性あり。
			東京フラワーポート 高温の影響から若干品質に不安あり例年に比べ上位等級少ない 世田谷花 下旬に向けて微増。引き合い強い。

品目	県名	作型	主要品種	出荷期	作付面積 ha	出荷見込み		5月のピーク(%)			主産地
				期間		出荷総数 千本	京浜地域向 千本	上旬	中旬	下旬	
				(ピーク)	(前年比)	(前年比)	(前年比)				
トルコぎきょう	北海道	促成～	キノブランⅡ キノブラン キノラパン チャームブルー	5～11月 (7～9月)	1663 88%	8138 94%		30%	40%	40%	深川市 北空知広域連
	青森		ホクトセイ ボヤージュ ロジーナ	6月～11月 (9月)	5.9 112%	1,058 112%	688 112%	40	30	30	つがる市 田舎館村 三戸
	秋田	抑制	八重系	6～12月 (9～10月)	11.1 104%	2,214 111%	1450 65%	20	40	40	おばこ ふるさと こまち うご
	山形	加温 無加温 シェード・加温	ホヤージュシリーズ レイナシリーズ ロジーナシリーズ 他白八重 他ピンク八重 他八重 一重 他	6～11月 (7～10月)	(%)	(112%)	(%)	30	30	40	JA庄内たがわ JA鶴岡 JAおいしいもがみ JA余目町 JAやまがた JA山形市 ほか
	福島	施設	ハピネスホワイト レイナホワイト ホヤージュブルー ウミアヤカ	6月～11月 (7月～10月)	11.9 105%	1,911 113%	1,605 100%	30	40	30	あいづ 坂下 猪苗代 いいで
	熊本	施設	サカタ系 タキイ系 ミヨシ系 など			480 152%					熊本市 やつしろ あまくさ くま 他
りんどう	秋田	露地 施設	ながの系 しなの系 パステル系	5月～11月 8月	43.4 106%	12,038 114%	5778 48%	60	30	10	白神 しんせい おばこ
	福島	施設	カセン スカイブルーシナノ スカイブルーナガノ ナツノキラメキ	7月～11月 (8月～9月)	25 93%	2,984 100%	2,178 100%	20	50	30	南郷 下郷 安達

品目	県名	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
トルコギキョウ	北海道	彼岸需要に向けて、新植・越冬株の2番花が下位等級を中心に出荷されると予想。色目はホワイトを中心にピンク・イエローが出荷されると思われる。	<p>現状 産地により生育状況はまちまちではあるが総じて前進傾向。月を通して前年より安定した入荷となる見込み。後半になるにつれ、下位等級の割合が上がってくる。他の洋花の花持ちが悪いことから、フリンジ系を中心に安定した引き合いとなった。</p> <p>見通し 前進している産地が多く、上旬までは安定した入荷となる見込みだが、今後も猛暑が続けば中旬以降、入荷が減少する可能性がある。例年度通り中旬以降は需要も多く、活発な取り引きが見込まれる。</p> <p>FAJ 福島・長野・秋田・北海道などより引き続き安定した入荷続く見込み。</p> <p>東日本板橋花き 東北産は入荷量が落ち着き、北海道産が増加傾向の見込み。</p> <p>東京フラワーセンター 各産地昨年並みの作付けで出荷計画だが一部産地障害あり数量減少</p> <p>世田谷花き 北海道・福島・長野などから入荷潤沢。</p>
	青森	天候不順の影響から、盆前出荷に間に合わず、一週間ほど生育が遅れが見られている。今後は出荷量が増加してくると見込まれ、病害虫の発生も特にならない。	
	秋田	草丈が短く、花芽を持つのが早かったため、やや出荷は早めに来ると思われる。人によっては細かったりする人も見られる。	
	山形	9月出荷の生育は、前年並みにやや早い。短日処理を実施したものは、一部品種で処理効果が低いが、概ね順調。	
	福島	9月彼岸向けは平場を中心に暑さの影響から上位等階級品の割合が減少する可能性有り。	
	熊本	早い作型は定植スタートしており、本格的な定植ピークは8月中旬～下旬。一部では転び苗や種子冷中の発芽による不具合もあるが、県内では概ね順調な生育となっている。防除の徹底により育苗段階での斑点病の発生もない。また、一部では年内出荷作型を増やしている産地もある。	
りんどう	秋田	今後の天候次第ではあるが、花芽分化期に高温に当たっているため、花ヤケが懸念されている。	<p>現状 旧盆は高温抑制により最終花芽があがってこず、やや数量も纏まりきらない環境下にあった。販売はスムーズではあったものの、荷物も盆以降やや残り単価を下げる展開となった。</p> <p>見通し 季節がら上位中心の荷姿となる。敬老の日、お彼岸、お月見と需要はあるので安定した取引となる。</p> <p>FAJ 彼岸に向けて数量まとまる見込みも大雨の影響で不安定要素多数。</p> <p>東京フラワーセンター 各産地順調な見込み</p> <p>世田谷花き 高温抑制で彼岸に間に合わないものが出てくる。相場強い。</p>
	福島	8月盆向けは前進出荷となったが物日に向けては前年を上回る順調な出荷となった。現在も高温が続いており彼岸向けも前進気味で下位割合が増えるか。	